

2022年1月13日

日本繊維産業連盟 鎌原会長 令和4年総会挨拶

1. はじめに

皆様、新年明けましておめでとうございます。

本日は、大変お忙しい中、日本繊維産業連盟の総会にご出席を賜り誠に有り難うございます。

2. 現下の情勢と繊維産業を取り巻く環境

2020年から始まりました新型コロナウイルスの影響にて世界経済も産業界も大変厳しい環境を強いられてきました。その中で、漸く世界経済は総じて回復の動きを続けている一方で、諸外国ではコロナの新規感染者が増加しており、また変異種オミクロン株の懸念もあり、今後の動向を注視せざるを得ない状況にあります。

我が国経済につきましても、昨年2021年は新型コロナ感染が拡大する中で緊急事態宣言が断続的に発令されていましたが、10月には全面解除となり消費は回復傾向にあります。回復ペースは4-6月期に比べ7-9月期は減速しましたが、10-12月期は新規感染者が低位で推移したこともあり経済活動も正常化に向かい、本年2022年も、オミクロン株や原材料の価格上昇など懸念材料はございますが、この危機下で積み上がった貯蓄が消費に回ることを見越した、潜在成長率を上回るペースでの回復を期待しています。また、世界経済も、コロナ危機下での各国の財政出動に支えられた状況から、自律的な回復へ移っていくものと思われれます。

ウイズコロナの構造変化への対応がポイントになると思います。この危機を契機に、デジタルトランスフォーメーションやカーボンニュートラル実現への流れが世界的に強まっており、成長率を押し上げていくために、これら改革を進めていく重要性が問われていると考えています。

さらに、1月1日には貿易額が1位の中国、3位の韓国との初のEPAとなるRCEPが発効しました。日本繊維産業連盟としましても皆様の活用を期待しております。

私たち繊維業界としては、2020年1月に公表の「2030提言」を加速して取り組んでいくことが必要であると強く確信しております。

3. 繊維産業の今後の課題と本年度の活動方針

こうした状況下で、本年度の日本繊維産業連盟の具体的な活動内容といたしまして、まずは、「2030年あるべき繊維業界への提言」を加速して取り組んでいくことです。提言では、近未来である2030年の我が国繊維産業を取り巻く状況がどのようになっているかを見越した、繊維産業の「あるべき姿」を前提として、その実現のために繊維産業の課題解決に向けた当面の対応策を提示しております。

1つ目は、デジタル革命への対応です。

現状、繊維産業の大層を占める中小企業の皆様においては、残念ながらデジタル化へ対応の遅れが懸念されております。こうした方々に対して、昨年も10月にオンラインではありますがIoTセミナーを開催いたしました。今後も日本繊維産業連盟としまして、皆様のサポートが出来ればと考えております。

2つ目は、人材の確保です。

従来から女性・高齢者の活用が進んでいる繊維産業におきましても、不足する人材を将来的に確保していくために、外国人の活用が必要な状況です。今後も、経済産業省と共同事務局をしております「繊維産業技能実習事業協議会」での取り組みの更なる強化に向け、各団体の皆様の協力のもと進めていくことを前提に、特定技能制度の活用に必要な環境整備を図っていきたいと考えています。

3つ目は、海外展開支援です。

特に、中小企業にとって、ハードルの高い海外展開につきましては、市場情報の提供、ビジネスマッチングなどを進めるための支援ネットワークの構築をスタートしました。引き続き、需要の掘り起こしに努めてまいります。

4つ目は、サステナビリティへの対応です。

繊維産業のサステナビリティにとって大きな課題の一つである取引適正化につきましては、引き続き繊維産業流通構造改革推進協議会と連携しつつ自主行動計画のフォローを通じて適正化を進めてまいります。

また、ILO駐日事務所の協力を得て「責任ある企業行動ガイドライン」を策定することで、各企業が社会的責任を果たし、ビジネスを進めやすい環境を整備することを目指して参ります。

更に、循環社会形成などの環境問題につきましては、最近の COP26 の動向を踏まえるなど会員団体の皆様と必要な情報を共有し適切な対応を図っていきたくと考えています。

これらを進めていく中で、イノベーションによる新たな価値の創造、新価値基準に対応したサプライチェーンの創造的向上によるバリューチェーン化を目指していきたくと考えています。

これらの活動に加え、従来からの主要活動である、通商問題、「J-quality」を含めた情報発信力・ブランド力の強化、「税制」をはじめとした政策要望なども進めてまいります。

4. 結び

最後になりますが、我々日本繊維産業連盟はこれからも日本の繊維産業全体が協力し合い、新たな価値基準によるビジネスモデルを構築して、社会から信頼される業界となるべく、今後も引き続き、これら活動方針を、皆さんとしっかり共有して取り組んで参りたいと思っています。そして2030年に向けて、繊維業界においても様々な連携作りを進めていくことで、明るい未来が開かれることを強く願っている次第です。

経済産業省の皆様には、引き続き、日本繊維産業連盟の果たしている多面的な活動に対しご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げますとともに、ご参加頂きました皆様のご多幸をお祈り申し上げます。私の挨拶とさせていただきます。

ご静聴ありがとうございました。

以上